

3/6(注)まで！倫理号が、夏期の良、不規則、仕事か、はがりあり、
「夏が来た時直に発行する」倫理の学芸の中で教えられる。

速い...誰かにも探検 2021. 2. 6~2. 12

今週の

倫理

2月のテーマ | 明朗愛和

鳥

1215号

花の社長/昨日は美味い料理にふもな あいさつごきりま

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所第二代理事長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のことばを掲載いたします。

迷ったときに、どう決断すべきか。

いつたい、決断をくだす場合には、何を根拠にし、何をよりどころにしたらよいのか。何にもなくて、ただ慢然ときめられるものであるか。

まず目的をはつきりさせよ。自分のやろうとしていること、現在やりつつあること。

その決断をくだそうとしていること、がらについて、いつたいその目的は何であるのか。

これを明確にすると、おのずから決断をくだしうる場合が多い。

平素の心がけについてさらにいえば、「適切に気がつく」ということがたいせつだ。

ところで、平素から気がついたことをすぐ行なっていないと、いざというときも行なえない。今日はこれをやったらよいとせ

つかく気づきながら「まあ、明日にしよう」などと延ばす暮らしを続けていると、いざ

というとき、適切な措置が頭に浮かんでこない。かんじんのとき、さっぱり気がつか

ないのである。小さなことでも実行に心がけていないと、大事なことの実行はなおさ

らできないのだ。

ともあれ、ほんとうに決断しようと思いつめていると、ハツとして夜中に気づくことがある。あるいは夢の中で、ある考えがひらめくことがある。夜だからといってそ



平常心を養え

丸山竹秋

のひらめきを軽視してはいけない。そうしたときは朝起きたとき、もういちど確かめてみる。朝になっても、夜中にひらめいたことが、はつきりと頭に残っているようであつたら、それはほんものだ。すぐ実行にかかるとよい。朝ぼんやりしているようだったか、何だか思い出せなかつたりするようなものであれば、それはほんものとはいえないであろう。

夜中に思いつかなくとも、朝起きたとき直感的にひらめくものがあつたら、これを軽視しないことだ。すがすがしいとき、さわやかな気分するとき、つまり邪念妄想の少ないとき頭に浮かぶ第一感はいけぬ。ぐずぐずして、まあまあ式の態度でいると、だめになってしまう。

いずれにしても決断にあたっては事がらがむずかしければむずかしいほど、それにまごころを集中させる。逃げてはいけない。なかなか決断できないとこぼす人に、よく聞いてみると、まだまだほんとうに行きづまっていないことがある。それだけの心をかたむけ、努力をしていなくせに、ただ頭だけ空転させているような人も実際にあるようだ。

真剣に取り組み。さんさんたる太陽の恵み！信ずべき人の言！立派な書物！いづれに取り組み、頭を下げてでも叡智は与えられよう。ほんとうに真剣に教えを乞えばヒントはかならずあたえられるのである。

『つねに活路あり』より